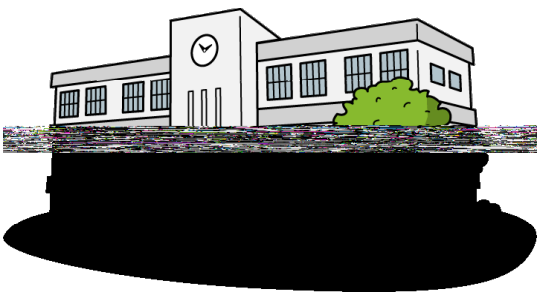


はじめに

動物を飼育するということはほんとうに楽しいことです。
しかし、ほんとうに大変なことでもあります。
飼育している動物にあったすまいや場所を用意してやらなければ、動物は
とても不安です。
飼育している動物にあった食べ物を用意してやらなければ、体をこわしてしまいます。
飼育している動物のいやがることをしては、動物はつらくてどうしてよいか
分からなくなります。
なにをすればいいのか、なにをしないほうがよいのか、飼育している動物のことを、
詳しく知る必要があります。
でも、知っただけでは動物をうまく世話をすることはできません。
毎日、毎日、欠かさずに動物のめんどうをみなければなりません。
食べ物や水を与え、元気かどうか、病気やけがをしていないか気を付けてみなければ
なりません。
そのためには、責任をもてる人が、長い間みる必要があります。
もし、それができないとき、だれかがかわりばんこに世話をしなければなりません。
そして、自分がみたことを次の人に伝えなければなりません。
そうです。飼育日誌が必要です。
元気だったか、食べ物はよく食べていたか、水は飲んでいたか。
一匹一匹、一頭一頭、一羽一羽について必要です。

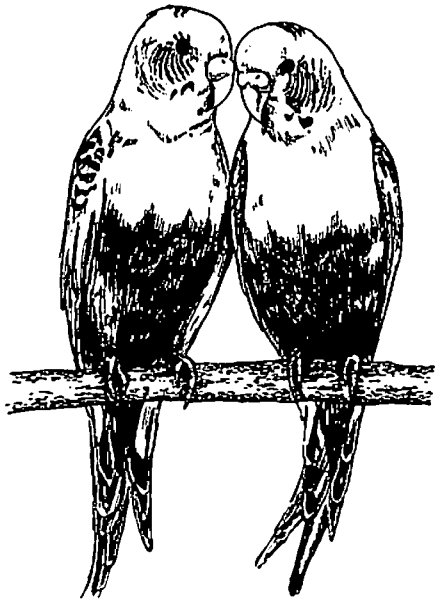
動物を飼育するということはほんとうに大変なことです。
しかし、ほんとうに楽しいことでもあります。

セキセイインコ

もともとオーストラリアにいた野生の鳥で、1840年頃、ヨーロッパで飼い始められた小型インコです。
日本には明治時代に輸入されました。
多くの種類があり、いろいろな羽根の色があります。
飼い方により、手乗りや、おしゃべりするインコになります。

寿命は、７～８年ぐらいです。
体重は、30～60gぐらいです。
卵を産むようになる時期は、生後４～６ヶ月頃からです。
卵は、19～21日でふ化します。

オスとメスは、くちばしのつけ根にある“ろう膜”の色で見分けます。
オスは、青またはピンク色で、メスは、かっ色または白色です。



鳥は、どうして空を飛べるのでしょう？
・鳥の体は、流線形で、抵抗を少なくしています。
・体重を軽くするために、骨の内部は気室と呼ばれるすき間がたくさんあります。
・多くのエネルギーを必要とするために大きな心臓を持ち、特別な呼吸をしています。
・翼の付け根の筋肉が発達しているために、翼を動かして体を空へ持ち上げます。
・鳥が食べたものをすぐ糞にして出すのも、体を軽くするためです。

セキセイインコの体

目　：丸くて小さな目ですが、とてもよく見えます。高い所をスピードを出して飛んでいても、周りをよく見ています。

くちばし：小さな実を食べたり、葉などをちぎって食べるのに適した形をしています。

ろう膜：オスとメスの間でも、また年令によっても形や大きさが違います。このろう膜には、小さな鼻がありますが、匂いは、あまりわからないようです。

耳　：顔の横の羽根で隠された所にあります。
人間よりずっとよく聞こえます。

羽　毛：飛ぶための羽根と体を暖める羽根があります。
１年に１度はえかわります。

翼　：前に進むためのものと浮くための羽根があります。
尾の羽根は、飛ぶときのかじとりと、降りるときのブレーキ役をはたしています。

総排泄口：糞と尿は、ここから出てきます。緑や黒っぽいものが糞で、白っぽい水が尿です。
メスは、ここから卵を産みます。

飼い方

環　境

鳥は、翼を使って、住みやすいところへ移動する動物です。
かごの中で飼っている鳥には、それができません。
そのため、かごの中の温度は20～30度、湿度60%ぐらいに保たなければなりません。

掃　除

セキセイインコは、きれい好きで、いつも砂遊びや水遊びをしています。
鳥かごの中が汚いと、鳴かなくなったり、病気になりやすくなります。
毎日掃除をしましょう。

日光浴

どんな生き物も生きていく上で、太陽の光が必要です。
毎日２時間ほど、午前中の柔らかい日ざしの下で日光浴をさせることが大切です。
ただし、風の強い日や雨の日は避けましょう。

止まり木

木製で、なるべくまっすぐな物を使いましょう。
止まり木の2/3ほど握れる太さの物を選びましょう。

餌

殻のついたもので、セキセイインコ用の配合飼料、またはヒエ60%、アワ30%、カナリアシード10%の割り合いで、混ぜて与えます。必ず毎日古い殻を取ったあとに新しい餌を足してください。
新鮮な青菜を毎日与えましょう。
また、無着色のボレー粉や、いかの甲も与えて良いでしょう。

餌入れ容器

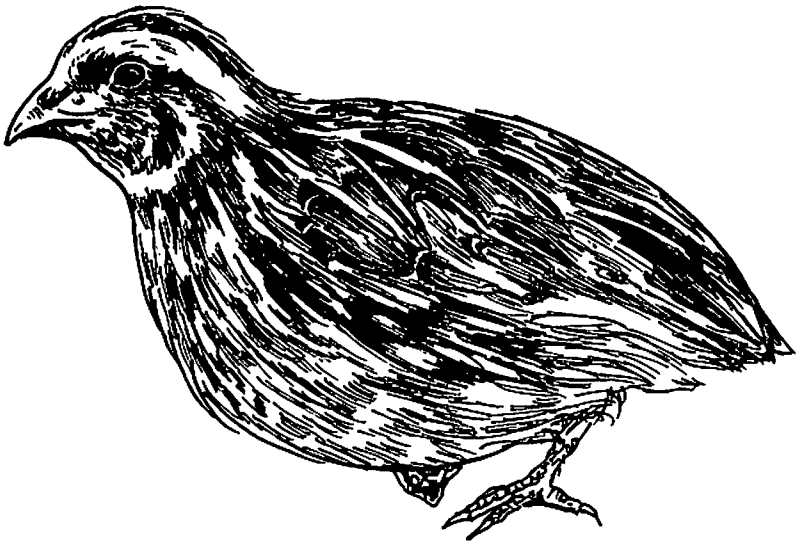
安定した、大きな容器を使いましょう。
糞や尿で汚れてしまわないように、止まり木の下には置かないようにしましょう。
青菜は、抜けて落ちないように長い筒のような容器を使いましょう。

ウズラ

ウズラは、もともと秋から冬にかけて日本に渡ってくる「渡り鳥」です。
今でも、日本やヨーロッパなどに野生で生活している鳥です。

野生のウズラは草原に住み、草や木の葉や種、昆虫などを食べて暮らしています。
ふつう「ウズラ」と呼ばれているのは、本当は「ニホンウズラ」と言い、
「ヒメウズラ」や「コリンウズラ」などとは違う種類です。

ウズラが飼われるようになったのは江戸時代頃からで、いさましい声を出すので、
鳴き合わせをさせて楽しんでいたそうです。
現在、飼われているウズラは、上手に空を飛ぶことができません。



寿命は、５～６年ぐらいで、ニワトリほど長く生きられません。
体重は、150gぐらいになります。
卵を産むようになる時期は、生後３ヶ月頃からです。
ウズラの卵は、15～16日で、ふ化します。

ウズラは成鳥になると、全長20cmぐらいになります。
オスの顔は、こげ茶色で、メスは、のどが白く胸もとに茶色の斑点があります。

飼い方

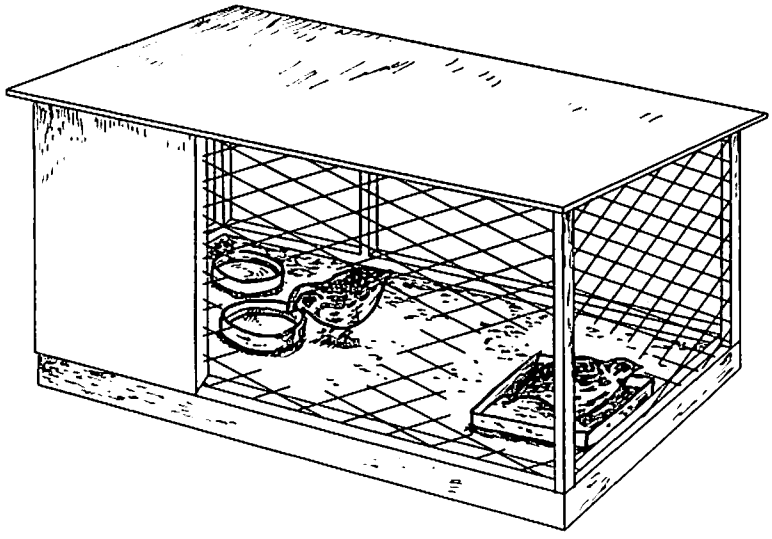
ウズラは、地面を歩く鳥です。
歩き回れるような広さの中で、飼いましょう。

ウズラは、砂遊びが大好きです。必ず砂場を作りましょう。
月に１度は、乾いたきれいな砂と交換しましょう。

争いをさけるため、オス１羽とメス３羽ぐらいで飼うのが良いでしょう。

ウズラは、健康のために日光浴がとても大切です。
鳥小屋には日当たりの良い場所と日陰のある場所を作りましょう。
夏は、強い日差しに当たりすぎて、熱射病になってしまうことがあるので、
すだれなどで、日差しをさけましょう。

いろいろなことから、ストレス（いらいらすること）がたまります。
ストレスのたまったウズラは、むだ鳴きをしたり、落ち着きがなくなったりします。



オス

メス

白い

冬は地面の上に、古くなった毛布やカーペットなどを敷き、夜は、小屋のまわりをベニヤやビニールで覆って、すきま風を防ぐと良いでしょう。
ウズラが犬、猫、カラスやヘビなどから襲われないように、小屋の金網は、丈夫なものを使い、地面にも金網や板を敷くと良いでしょう。
小屋は、汚れや糞が残らないように、いつも清潔に掃除をしましょう。

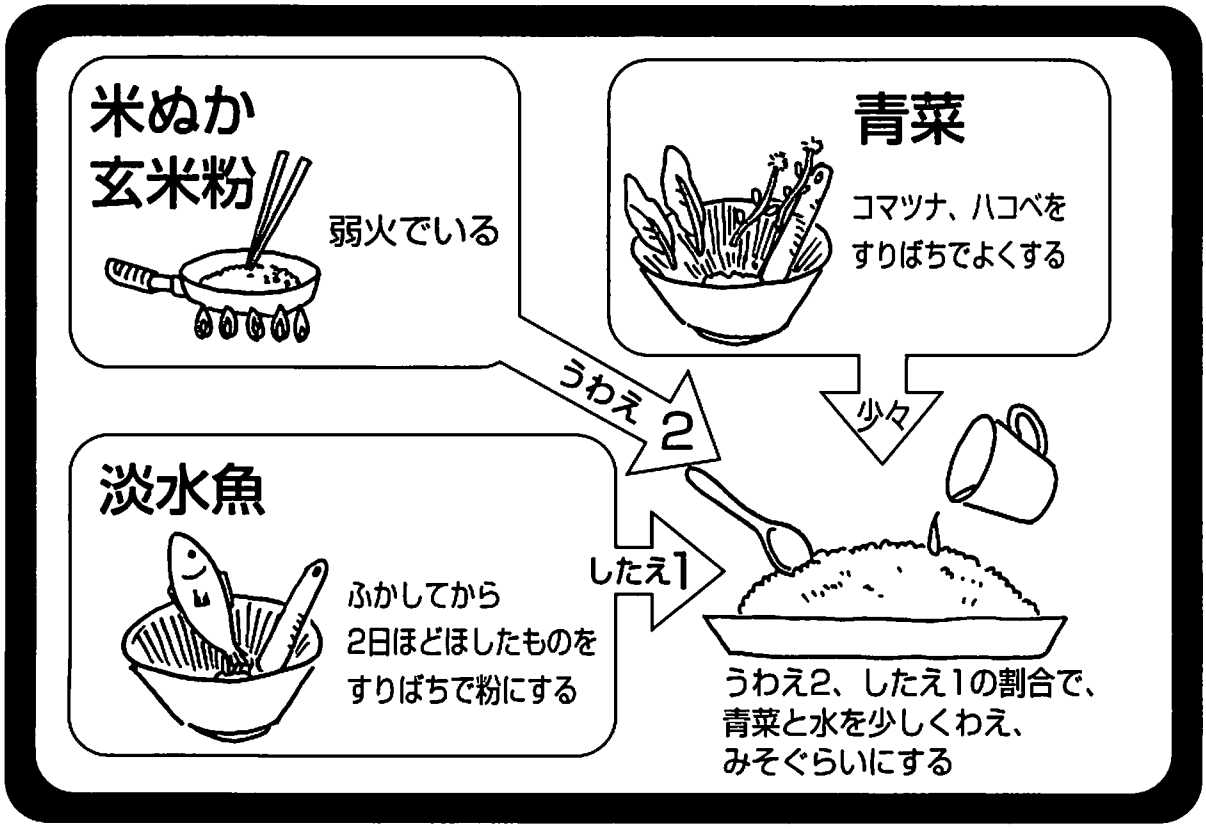
餌について

ニワトリやウズラ用の配合飼料、またはハトやインコの餌に、細かくきざんだキャベツや小松菜などの青菜を混ぜて、朝と夕方の１日２回与えましょう。
１回に与える量は、ウズラの数にもよりますが、30分くらいで食べきるぐらいの量にしましょう。
また、無着色のボレー粉や、いかの甲、ミルワームも与えて良いでしょう。
なお、野生の昆虫は、寄生虫を持っているので、与えないほうが良いでしょう。

ひなの餌について

ひなから飼うときは、ヒヨコと同じように小ひな用の配合飼料やすり餌を与えます。
小松菜やハコベなどの青菜を少し加えるのも良いでしょう。
また、餌がくちばしに乾燥してこびりついたら、とってあげる必要があります。

すりえのつくり方



アヒル

アヒルは、野生のマガモを家畜化したものです。
今から、約2500年前から人間に飼われるようになりました。

白い羽根だけでなく、いろいろな色をした種類があります。
上手に飛ぶことはできませんが、泳ぎが上手です。
足の指の間に水かきがあります。

オス

メス

オスはメスよりも体が大きく、尾羽根がつき出ています。
寿命は10～15年ぐらいです。
体重は、４～4.5kgです。
卵を産むようになる時期は、生後10ヶ月頃からです。
卵は29日ぐらいで、ふ化します。

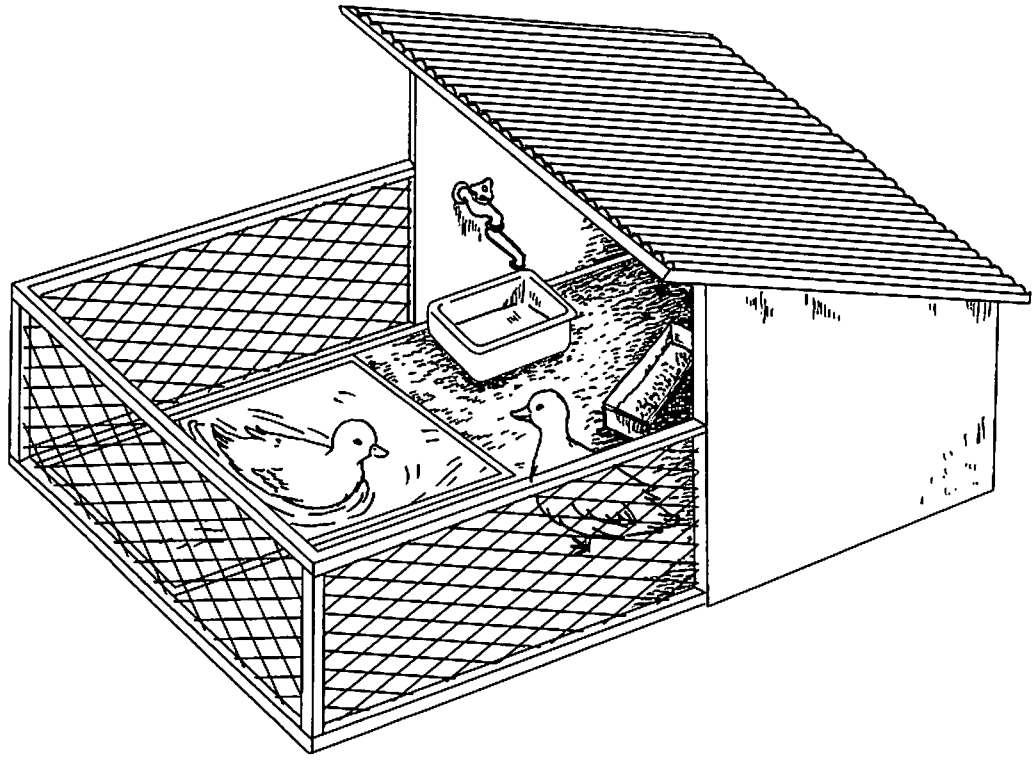
飼い方

外に小屋を作り、さくで囲って飼いましょう。
アヒルは、水かきを持ち、水の上で生活している歩くことが上手でない鳥です。
段差のない平らな所で飼いましょう。

アヒルは、集団でいることが好きな鳥ですが、オス同士だとケンカをすることがあるので気をつけてください。

餌は、ニワトリ用配合飼料、パンくず、ごはん、青菜、トウモロコシなどを与えてください。
アヒルは、水をたくさん飲むので、必ず新鮮な水を与えましょう。

アヒルは、セキセイインコやウズラに比べて、体が大きく糞の量が多いため、汚れや糞が残らないように、毎日にち必ず清潔に掃除をしましょう。
夏　池の水が汚れやすいので注意しましょう。
　　小屋の運動場に日陰をつくりましょう。
　　飲み水も１日２回は、かえましょう。
冬　小屋に北風がふきこまないようにしましょう。
　　日光浴をよくさせましょう。



鳥の健康

毎朝、鳥たちに「おはよう」と声をかけましょう。
鳥は、か弱い動物で体力も消耗しやすいので注意深く観察しましょう。

1）顔をよく見ましょう。目がきらきらしてたら、元気なしるしでしょう。
くちばしの表面が荒れてガサガサしていたり、羽根が汚れていたら、病気かもしれません。

2）いつも動きまわっていることが、健康なしるしです。体をふくらませていたり、うずくまって動かないと病気かもしれません。

3）餌の食べ具合を見ましょう。餌のなくなりかたが遅かったり、餌を食べる姿をあまり見かけなくなったら、病気かもしれません。

4）糞は、必ず毎日よく見ましょう。
いつもと違う色や匂い、または水っぽい糞の時は注意が必要です。
お尻の周りが汚れていないか、よく見ましょう。

5）くしゃみ、鼻水、目やにが出ていなか、よく見ましょう。
鼻の穴に鼻水がたまると、呼吸が苦しくなって、くちばしを開けるようになります。
病気かもしれません。

6）足をひきずったり、翼をだらりと下げているのは、ケガをしているかもしれません。
特に、アヒルの足は注意が必要です。足の裏がこぶのように腫れて、足を持ち上げたり、歩き方がおかしくなったりします。ひどくなると、足の上のほうまで腫れ、食欲もなくなります。

7）セキセイインコは、時々、爪やくちばしが伸びていないか、よくみましょう。くちばしが伸びていると餌を食べることができませんし、爪が伸びていると、うまく止まり木にとまれません。

飼育の注意点

毎日すること

えさ入れをそうじして、えさをあげる。
水入れをあらって、新しい水を入れる。
食べた量を調べる。

寝床のわらを入れ替える。
糞便の掃除をする。
歩き方や食べ方を見る。
からだ全体をよく見る。

1週間に1回すること

小屋の大掃除。
体重をはかる。
目や耳を見る。

「なにか変だなあ」と思ったときは、先生に相談し、獣医さんにみてもらうことが大事です。

飼育日誌

毎日つけましょう。
見たことを正直につけましょう。
次の人に分かるようにつけましょう。

飼育日誌の書き方の例

年　月　日　当番の人の名前	
動物のなまえ	元気？　食べ物の種類　食べた量
	動きについて感じたこと
	便について思ったこと
	世話をしたときに気づいたこと
	元気のなかった動物は
	食べていない動物は
	次の日の当番に連絡すること

おわりに

動物を飼育することは楽しいことですがそのためには、その動物の色々な知識を得る必要があります。
動物のお医者さんの集まりである横浜市獣医医師会が、前回のうさぎとにわとりに続き、今回のセキセイインコ、ウズラ、アヒルの冊子を作りました。ぜひ飼育する時の参考にして下さい。

セキセイインコ、ウズラ、アヒル

2004年4月1日　第3版発行

発　行　社団法人　横浜市獣医師会
〒235-0007　横浜市磯子区西町14番3号
電　　話　045-751-5032
会　　長　中川　秀樹

編　集　社団法人横浜市獣医師会学術委員
委員長　小山康次郎
副委員長　田中　真治
委　　員　加藤　　規
上村　博英
川口　　茂
社団法人横浜市獣医師会理事
溝呂木啓之
竹田　浩一
久松　紘一